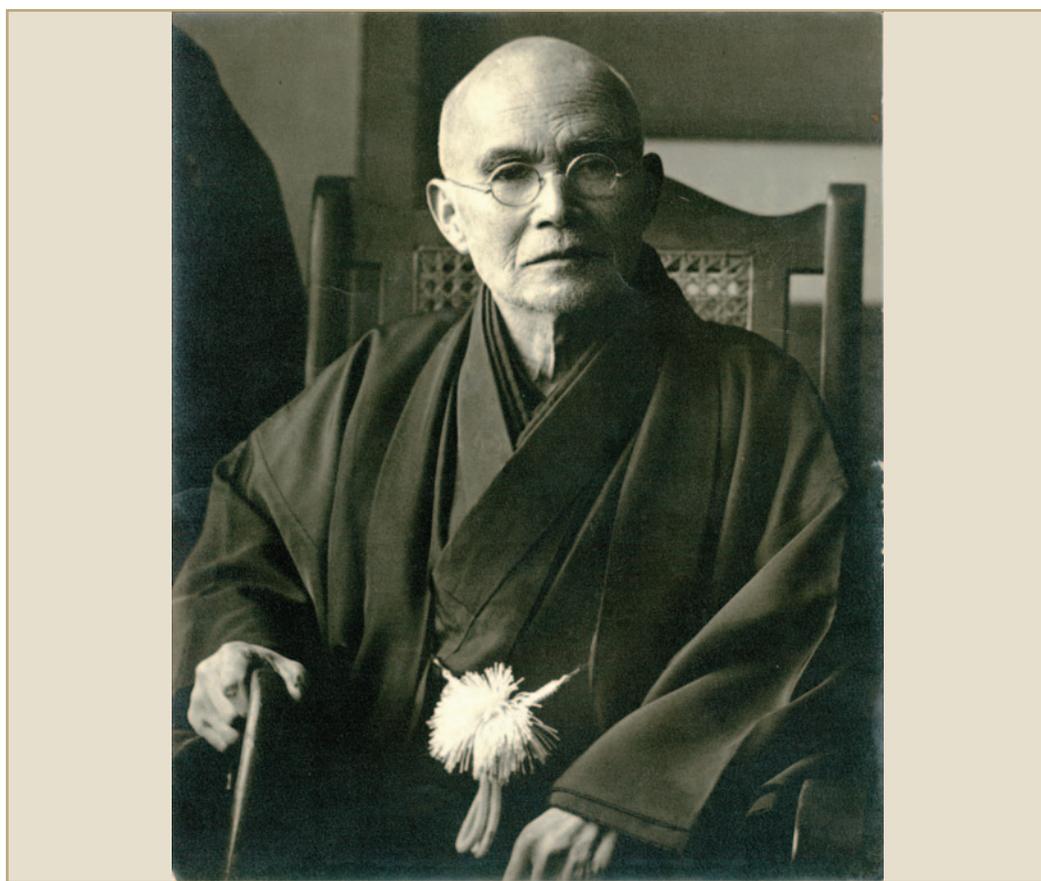


岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2013・2 vol.437

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—大堀 勉



生誕150年を迎える創立者 三田 俊次郎 先生

〈関連記事：P2〉

おもな内容

- 特集 創立者三田俊次郎先生が築いた岩手医科大学の礎 企画部企画調整課
- トピックス 本学附属病院に内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ サージカルシステム」を導入します
- 表彰の栄誉 外科学講座 若林 剛教授が第100回米国外科学会総会において最優秀演題に選ばれました
- フリーページ すこやかスポット医学講座No.44 「強度変調放射線治療 (IMRT)」

放射線医学講座 教授 有賀 久哲

特集

創立者三田俊次郎先生が築いた 岩手医科大学の礎

企画部企画調整課

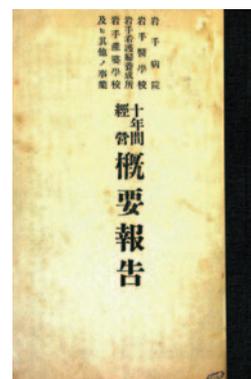
本学の創立者三田俊次郎先生は、文久3（1863）年3月3日に盛岡市加賀野で生を受け、本年で生誕150年の節目を迎えます。

先生が築いた今日の岩手医科大学の礎は、これまでも本学の年史等で紹介されておりますが、生誕150年の節目であり、また、総合移転整備計画という大学の更なる飛躍を図るこの時に、偉大な先人に畏敬の意を込めまして、あらためてご紹介させていただきます。

草創時代：私立岩手病院の開院、私立岩手医学校の設立

明治時代における岩手県の医療情勢は混迷を極めており、明治21（1888）年には医師の養成機関にあたる県立岩手病院附属医学講習所が廃止され、翌明治22（1889）年には県立岩手病院が廃止されました。

本県医療の貧困を憂いた三田俊次郎先生は、明治30（1897）年4月に私財を投じて元の県立岩手病院を借り受けて「私立岩手病院」を開設しました。また、岩手県立図書館所蔵の「岩手病院、岩手医学校、岩手看護婦養成所、岩手産婆学校及びその他の事業十年間経営概要報告（右写真）」には、病院内に「医学講習所」と「産婆看護婦養成所」を併設していたことが記



明治40年に発行された概要報告（写）
現存する当時の資料としては大変貴重な
ものです。（原本は岩手県立図書館所蔵）

されており、開院当時からすでに医師をはじめとした医療人の養成が行われていたことが最近明らかとなりました。

医学講習所は、明治33（1900）年6月に盛岡市六日町（現下の橋町2の9）の盛岡医会堂の建物内に移設されました。そして翌年の明治34（1901）年11月に医学講習所は「私立岩手医学校」へと改められ、同年12月に先生は県から借り受けていた敷地と建物を全て取得され、同校の実習場にあてました。同校は、設立以来着実に医師を輩出していましたが、明治末期に医術開業試験制度が廃止され、医術試験の受験資格が専門学校卒業者に限られたため、明治45（1912）年3月に廃校の止む無きに至りました。



大正11年頃の私立岩手病院と三田俊次郎先生（中央）

医専時代：岩手医学専門学校の設立

私立岩手医学校の廃校以来、岩手県は再び医育機関皆無の状態が続いていましたが、先生の医学教育にける思いが色褪せることはありませんでした。大正末期から全国的に医学専門学校設立の気運が高まると、昭和3（1928）年2月、近代的な学校組織となる「私立岩手医学専門学校」が誕生しました。「三田俊次郎先生伝（昭和39年9月13日発行、著者：後藤英三先生）」には、同校設立までに先生が奔走されていた様子とともに、文部省による岩手医専設立認可の理由の一つとして「三田俊次郎先生の多年に亘って医学教育に尽瘁している熱意と閱歴とが認められたこと」が挙げられており、先生の努力と情熱がいかに絶大なものであったかは想像に難くありません。

先生は盛岡市の市議員をはじめ多くの公職を兼務されていましたが、岩手医専の設立以来は一切の公職を去って、学校運営に後半生を捧げました。「三田俊次郎先生伝」では、次のとおり先生の献身ぶりが紹介されています。



私立岩手医学専門学校設立当初の教職員（昭和3年10月）
前列中央：三田俊次郎先生

「昭和三年、宿願の医学校を創設し得た時、すでに六十六歳。世間並みに言えば老齢の域である。しかるに開校式の当日、『当分家には帰らぬ、従って家屋及び庭の手入れは一切禁ずる』と厳命して自宅を出たまま、昭和七年、第一回卒業生をおくり出す日までの四年間、ほとんど岩手病院内の校長室に起臥して、学校発展の陣頭指揮に身を挺し、帰宅する日が稀であるほどの尽瘁ぶりであった」。

こうした先生のご努力と気鋭の教職員が衷心からの熱意を学校運営に注いだ結果、岩手医専は当時の文部省当局に好意的な印象を与えたとされています。同書では、文部省視学委員が新設学校視察のため来校した際に「常に他の同僚校よりも信頼されるところが厚く、国家試験の成績の平均点が優れていることが証明された」とも記載されています。



晩年の三田俊次郎先生（右）と初代学長の三田定則先生（左）



第一回卒業生の寄書と三田俊次郎先生
恩師の署名を中心に卒業生全員が大鍋の木蓋に署名したもの

かくして先生は、その情熱と不断の努力で学校運営に献身されますが、老衰が目立ち病床に伏せることが多くなると昭和17（1942）年3月に岩手医専の校長職を辞任され、後任には三田定則先生が就任されました。そして同年9月13日、79歳でその生涯の幕を閉じました。先生の霊柩は、学生の手によって加賀野にあるご自宅から岩手病院に運ばれ、学校葬が厳粛なうちにも盛大に行われ、学校関係者をはじめ岩手県民、学界がこぞって偉人の業績を称え、逝去を悼みました。その後、岩手医学専門学校は、戦後の教育改革により昭和22（1947）年6月18日に「岩手医科大学」に組織変更し、初代学長に三田定則先生が就任されました。さらに昭和26（1951）年3月13日に学校法人の設立が認可され、新制岩手医科大学が発足するに至り、今日の私学の雄たる揺るぎない地位を確立したのです。

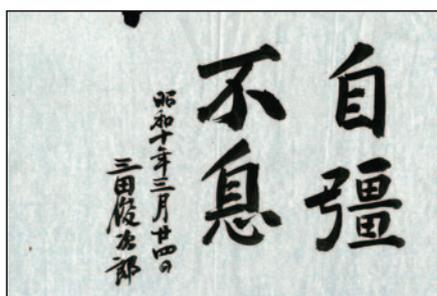
おわりに

三田俊次郎先生は、その慈愛の精神により本学の創立以外にも数々の育英事業や慈善事業、医療事業にご尽力され、本県の発展に多大なる功績を残しています。岩手医専の設立に際して報じられた、岩手毎日新聞（昭和3年2月16日：岩手医専設立認可に際して—三田院主談—）には「**医術は済生の根本、良医を養成して、新附の蒼生を慈恵せよ**」というタイトルが掲載されています（「新附」は新しく付き従うこと、「蒼生」は多くの人々を意味します）。これは先生によるコメントと推測されるものでありますが、後世に残した不朽の名言とも呼べるものではないでしょうか。

本特集は、先生が残した偉業の一端を紹介するに留まりますが、大学報vol.426（2012年3月号）の特別寄稿（岩手医科大学医師会報No.107の転載記事）において先生の生い立ちや業績が紹介されていますのでご覧ください。執筆者である盛岡市教育委員の吉丸蓉子先生には、学生講義の講師も務めていただいております。昨年11月には「限りない人間愛 —岩手医科大学創立者三田俊次郎の業績—」と題した特別講義をいただいております。

また、現在創立60周年記念館10階の歴史資料コーナーでは、生誕150年特別展示を開催しており、三田俊次郎先生にまつわる貴重な資料を展示中です。今回の特別展示と併せて、大学歴史資料の一部も更新しましたので、ご興味のある方は、この機会に是非ご覧ください。

以下には、展示品の中から数点をご紹介します。



自筆の書（昭和10年3月24日）
自強不息（じきょうふそく）とは、「自ら努め励んでやまないこと」を意味します。



幼少時における学業証書の数々



着用されていた紋付や杖、草履など

最終講義が行われました

平成25年3月31日付をもって定年退職される共通教育センター所属教授の最終講義が矢巾キャンパス講義室で行われました。1月8日(火)には人間科学科体育学分野の作山正美教授、1月22日(火)には情報科学科数学分野の高橋敬教授と情報科学科医用工学分野の三田光男教授が講義を行いました。

最終講義に先立ち、先生方の本学に対するご尽力に対して、小川学長をはじめ教職員から感謝の言葉が述べられ、また、学生からは花束が贈呈され惜しみない拍手が送られました。



人間科学科体育学分野 作山 正美 教授



情報科学科数学分野 高橋 敬 教授 (共通教育センター長)



情報科学科医用工学分野 三田 光男 教授

平成25年度一般入学試験が行われました

平成25年度の岩手医科大学一般入学試験は、平成25年1月23日(木)に医学部一般一次試験、1月31日(木)に歯学部一般前期試験・薬学部一般前期試験、1月31日(木)と2月1日(金)に医学部一般二次試験が行われました。また、本年度からは歯学部と薬学部に大学入試センター試験を利用した入学試験制度が導入されており、1月31日(木)に歯学部前期志願者の面接試験が行われました。

志願状況は、医学部一般が2,197人(倍率25.0倍)、歯学部一般前期・センター試験利用が68人(倍率2.5倍)、薬学部一般前期・センター試験利用が237人(倍率3.5倍)となりました。

本学附属病院に内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ サージカルシステム」を導入します

本学附属病院は、最先端の内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ サージカルシステム」を県内で初めて導入します。

このシステムは、ロボットの遠隔操作機能等をこれまでの内視鏡下手術に組み合わせて発展させたもので、多関節を有する繊細な鉗子の動きにより、正確でスムーズな手術操作を行うことができます。また、傷口が小さい低侵襲の手術のため、安全性の向上や患者さんの負担軽減につながるものとして期待されています。

1月24日(木)には創立60周年記念館10階会議室で記者会見が行われ、酒井附属病院長と泌尿器科学講座藤岡知昭教授、小原航講師が出席しました。

システム設置工事は3月中に完了する予定で、本年5月からの稼働を予定しています。



説明を行う藤岡教授(右)と小原講師(左)

いわて東北メディカル・メガバンク機構の事業が本格実施を迎えます

本学は、かねてよりいわて東北メディカル・メガバンク機構の事業の準備を進めてまいりましたが、この度本格実施の運びとなりました。

1月25日(金)には、小川理事長、祖父江副学長・機構長、小林医学部長・部門長、人見医学部副学部長・副機構長をはじめとした大学関係者が出席し、創立60周年記念館10階会議室において記者会見が行われました。

この事業は「被災地域の医療復興」のため、医師派遣や健康調査等を通じて被災された住民の方々の健康意識の向上に貢献し、生体試料と生体情報のバイオバンクの構築、次世代型個別化医療(発症前診断法と発症予防・治療法)の確立を目指すものです。

実施体制は文部科学省に推進本部を置き、本学と東北大学が実施機関としての役割を担います。



記者会見の様子

表彰の榮譽

外科学講座 若林 剛 教授が第100回米国外科学会総会において最優秀演題に選ばれました

去る平成24年9月30日から10月4日までアメリカ合衆国、シカゴで開催された第100回米国外科学会総会において企画されたビデオセッションで、医学部外科学講座の若林剛教授が招請講演を行いました。多くの腹腔鏡及び内視鏡下手術手技の優れたビデオが計18題発表されましたが、若林教授は巨大な肝内胆管癌に対する肝臓ハンギング法を用いた前方アプローチによる完全腹腔鏡下肝右葉切除術の手術手技について発表を行いました。



学会会場にて:左から関連病院初期研修医安藤先生、若林教授、筆者

現在、外科学講座で国内はもとより世界をリードする腹腔鏡下肝切除術が、悪性腫瘍に対しても問題なく応用できること、葉切除あるいは2区域以上の肝切除術でも安全に行いうること、通常開腹手術で利用される肝臓ハンギング法や前方アプローチを完全腹腔鏡下でも施行可能であることを世界で初めて示しました。米国外科学会

は、世界の外科系学会でも最も格が高い学会の一つであり、演題採択されることでさえも非常に光栄な学会ですが、その聴衆による投票で、手術手技、発表内容、効果的発表方法、ビデオ映像の質などの部門で最高評価を得て、総合点数でもトップとなりました。

最後に、このような貴重な機会に学会に同行できた事を大変ありがたく思い、教室の諸先生方に深謝申し上げます。 原稿寄稿：梅邑 晃(大学院医学研究科3年)



器械展示で自動縫合器を試用する若林教授

臨床工学部 伊藤 仁 さんが第25回日本内視鏡外科学会総会「チーム医療優秀演題発表賞」を受賞しました

臨床工学部の伊藤仁さんが、平成24年12月6日から3日間にわたりパシフィコ横浜で開催された第25回日本内視鏡外科学会総会においてチーム医療優秀演題発表賞を受賞しました。

受賞演題は「立ち会い規制から現在に至るまで」で、平成20年4月に厚生労働省から発出された医療法の改正や医療機器の立ち会いに関する基準等について、規制直後の問題点や改善点等を発表しました。

厚生労働省による立ち会い規制は、医療機関、特に臨床工学技士の適切な対応が期待されており、本報告は、チーム医療の推進改善に繋がるものとして評価を得ています。



岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金 ～皆様のご厚志により支えられています～

平成21年6月から始まりました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今回は19回目の御芳名紹介です。(平成24年11月1日～平成24年12月31日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等

<御芳名のみ記載>

医療法人知恵会成田内科胃腸科医院 (岩手県) (敬称略)

個人等

<1,000,000円>

山本 馨 (一般)

<100,000円>

漆久保 潔 (医26)

圭陵会宮城県大崎支部

<御芳名のみ記載>

鈴木 一 幸 (教職員)

立花 成 勝 (元職員)

菊島 一 仁 (父母)

金子 克 (名誉教授)

増田 友 之 (教職員)

米谷 則 美 (医30)

(受付順、敬称略)

これまでの募金累計額

区 分	申込 件数	募金金額(円)
圭 陵 会	458	331,672,000
在 学 生 父 母	189	115,140,000
役員・名誉教授	40	70,910,000
教 職 員	114	16,595,000
在 学 生	1	100,000
一 般	113	391,292,922
合 計	915	925,709,922

(平成24年12月31日現在)

● 矢巾キャンパス弓道場建設資金への寄付について

本町キャンパスに設置されている老朽化した弓道場に替わり、矢巾キャンパスへ新たな弓道場を建設する資金として、時中会(弓道部OB会、湊 修嗣会長(医21期))より金4,830,000円のご寄付を賜りました。

弓道場の新設は本学事業計画にも盛り込まれており、頂いた寄付金は趣旨に沿うよう有効に活用させていただきます。

格別のご理解とご支援を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

お知らせ

個人からの寄付に係る所得税の税額控除制度導入について

本法人に対する個人からの寄付金の税制上の優遇措置は、これまで「所得控除制度」が適用されてきましたが、平成23年度の税制改正により、平成23年1月1日以降のご寄付に対して「税額控除制度」の適用が可能となりました。

このことにより、現在、「所得控除」と「税額控除」の2つの制度の適用が可能であり、どちらか一方の制度を寄付者の選択によりご利用いただくこととなります。

なお、寄付の目的によっては本制度が適用されない場合がありますので、ご不明な点は企画調整課(TEL 019-651-5111(内線7022・7023)FAX 019-624-1231 E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp)までお問い合わせください。

<税額控除額の算出式>

$$\left[\text{税額控除対象寄付金} (\ast 1) - 2,000 \text{円} \right] \times 40\% = \text{税額控除額} (\ast 2)$$

※1 寄付金支出額が、総所得金額等の40%に相当する金額を超える場合には、40%に相当する額が税額控除対象寄付金となります。

※2 控除対象額は、所得税額の25%を限度とします。



生理学講座 (病態生理学分野)

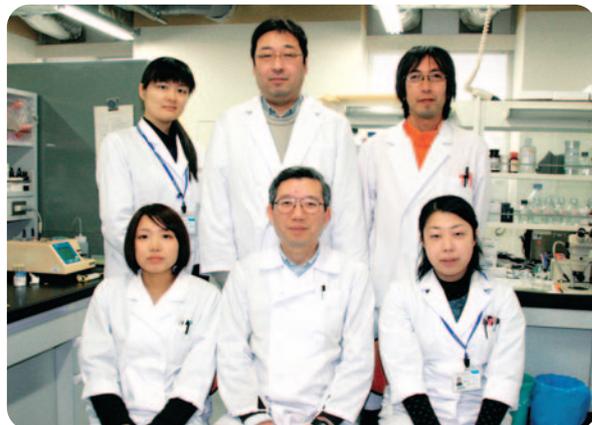
生理学講座病態生理学分野は教授以下3名のスタッフ、研究員、技術員、学生の総勢6人で日々の教育、研究活動を行っています。電気生理を主体にしてfMRI、分子生物学、組織学手法なども取り入れ多方面から生体の機能についてアプローチしています。

現在、味覚および嗅覚の受容・認識機構と唾液分泌機構について細胞レベルから、組織、器官レベルまで研究を進めています。電気生理学は敷居が高いと感じられるかもしれませんが、細胞の反応をリアルタイムで見ることができるため、良い記録が取れた時は喜びもひとしおです。そのような研究の面白さを伝えようと学部学生実習などで研究を体験してもらっています。

我々の研究内容や方法に興味のある方は西研究棟2階の研究室をお訪ねください。ただし、良い

記録が取れ、祝盃をあげていることもあります。

(助教 深見 秀之)



看護部 (西3階病棟)

西3階病棟は婦人科と皮膚科の混合病棟です。婦人科に入院される患者さんは、子宮及び卵巣の良性・悪性腫瘍疾患が多く、手術や化学療法、放射線療法が行われています。皮膚科疾患では、天疱瘡や悪性黒色腫など薬物療法や手術、化学療法を行っています。治療を進める中で出現する副作



用症状に対し苦痛が最小限で経過できるよう関わっています。

入院患者さんの年齢層は幼児から高齢者まで幅広く、状況に応じた柔軟な対応が求められ、特に高齢者は治療により体調が著しく変化するため、転倒・転落のリスクが高く安全な入院生活を送れるように援助をしています。また、婦人科・皮膚科疾患共に終末期に移行する患者さんも多く、苦痛緩和や精神的援助に努め緩和ケア認定看護師と連携をとり患者さんとそのご家族の望む生活を送れるように関わっています。

スタッフみんな笑顔で明るく対応できるようチームワークを良好に保ち、患者さんが満足できる看護が提供できるよう頑張っています。

(主任看護師 村上キヨ子)

— 大学報原稿募集 —

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活発な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、随想、作品(写真、俳句、絵画など)、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお寄せください。(原稿字数 500字~1,000字程度)

また、特集してほしいテーマや、各コーナー(「表彰の榮譽」「トピックス」「教職員レター」など)への掲載依頼などもお待ちしております。事務局までご連絡ください。

連絡先 大学報事務局(企画部企画調整課)
内線7023 kikaku@j.iwate-med.ac.jp

理事会報告

■12月定例（12月17日開催）

1. 任期満了に伴う歯学部長の選任について

歯学部 口腔保健育成学講座歯科矯正学分野

教授 三浦 廣行（再任）

（任期 平成25年4月1日から平成27年3月31日まで）

2. 教育職員の人事について

医歯薬総合研究所 超高磁場MRI診断・病態研究部門

教授 佐々木 真理（前特任教授）

医学部 災害医学講座

特命教授 眞瀬 智彦

（前岩手県立中部病院脳神経外科長兼災害医療科長）

総合基礎講座 病理学講座先進機能病理学分野

准教授 木原 美和（前講師）

（発令年月日 平成25年1月1日付）

3. 組織規程の一部改正について

改正内容：特命教員に関する条項を新設

（施行年月日 平成25年1月1日）

4. いわて東北メディカル・メガバンク機構の機構長及び副機構長の選任について

いわて東北メディカル・メガバンク機構

機構長 祖父江 憲治（副学長・医歯薬総合研究所長）

副機構長 人見 次郎（解剖学講座人体発生学分野教授）

（任期 平成25年1月1日から平成27年12月31日まで）

学事案内

<平成24年度卒業式>

●岩手医科大学

医学部、歯学部、薬学部、大学院医学研究科・歯学研究科

日時：平成25年3月8日(金)午前10時

場所：岩手県民会館大ホール

●岩手医科大学医療専門学校

歯科衛生学科、歯科技工学科

日時：平成25年3月7日(木)午前10時

場所：本学講堂（歯学部棟4階）

<平成25年度入学式>

●岩手医科大学

医学部、歯学部、薬学部、大学院医学研究科・歯学研究科・薬学研究科

日時：平成25年4月9日(火)午前10時

場所：岩手県民会館大ホール

●岩手医科大学医療専門学校

歯科衛生学科、歯科技工学科

日時：平成25年4月6日(土)午前10時

場所：本学講堂（歯学部棟4階）

確定申告・還付申告のための税務相談のお知らせ

平成24年分の所得にかかる確定申告・還付申告のための税務相談会を下記のとおり開催します。

1. 相談員 税務担当顧問 田中 洋志 税理士
2. 日時 2月28日(木) 9:30~11:30
13:45~16:00
3月1日(金) 9:30~11:30
3月4日(月) 9:30~11:30
13:45~16:00
3月5日(火) 9:30~11:30
3月6日(水) 9:30~11:30
13:45~16:00
3月7日(木) 9:30~11:30
13:45~16:00
3月8日(金) 9:30~11:30

3. 場所 木の花会館3階 第1会議室

4. 連絡先 人事職員課（内）3233

- 申告書は、人事職員課に用意しています。
- 申告書は、各自で必ずご記入くださるようお願いいたします。作成にあたっては、手引きや昨年の申告書の写しを参考にしてください。また、国税庁ホームページより申告書の作成ができますのでご利用ください。
- 相談の際は、添付書類、印鑑等も忘れずにお持ちください。
- 相談員1名で対応するため、希望する時間帯に相談が受けられない場合もあります。あらかじめご了承ください。

第106回大学報編集委員会

日時：平成25年2月21日(木) 午後4時~午後5時

出席委員：影山 雄太、松政 正俊、齋野 朝幸、藤本 康之、佐藤 仁、下山 佑、米澤 裕司、

昆 由美子、畠山 正充、鈴木 尚子、武藤 千恵子、野里 三津子

今年には本学創立者の三田俊次郎先生の生誕150年となります。歴史ドラマは時々見ますが、自分が生まれる前の盛岡とは重なりませんでしたが、今号の特集で三田先生のお人柄や本学の開設当時の時代背景などから当時を少し垣間見ることができました。皆さんはいかがでしたか。

私事ですが1月に風邪をひき、なかなか治らず大変でした。年のせいもありますが……。暖かい春が待ち遠しいです。

(編集委員 武藤 千恵子)

岩手医科大学報 第437号

発行年月日 平成25年2月28日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7023)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポット医学講座 No. 44

放射線医学講座

教授 有賀 久哲



強度変調放射線治療 (IMRT)

●はじめに

強度変調放射線治療 (IMRT) とは、コンピューターの助けを借りて、自由な場所や形に放射線を集める技術です。がん放射線を集中して正常組織の被ばくを減らせば、治療成績の向上や副作用の軽減が期待されます。

●IMRTの原理

これまでの放射線治療は、なるべく均一な放射線を当てるのが原則でした。がんの位置が少しずれても、均一に照射される範囲に留まっていれば、安定した治療効果が得られるからです。しかし、そこに含まれる正常組織も強く被ばくしますので、副作用が出たり、照射できる量が限られてしまいます。IMRTでは、放射線の強さをあえて不均一に変化させて (強度変調と言います)、それをたくさん組み合わせることで、様々な形の3次元分布を作ります (図1)。直腸 (ピンク) の部分を凹ませることで、前立腺だけに放射線をたくさん当てられるようになり、前立腺癌の成績は画期的に改善しました。

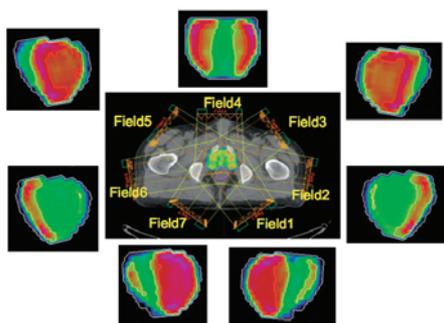


図1 IMRTの原理

●唾液腺の話

耳鼻科のがんは放射線治療の良い適応ですが、唾液腺が放射線に弱いため、つばが減ってしまいます。口が乾くと、不快だけでなく衛生状態も悪くなり、虫歯や肺炎のリスクが上がります。両ほほにある耳

下腺という唾液腺を避ける努力が続けられてきましたが (図2 A)、患者さんの満足度はなかなか上がりませんでした。耳下腺は食事のとき水っぽい唾液を分泌しますが、常に口を潤しているのは顎下腺という別の唾液腺が出す粘液の働きが大きかったです (図2 B)。どこに照射するか、温存したい部位はどこか、技術の進歩は新しい課題を生み出して医学を後押ししています。

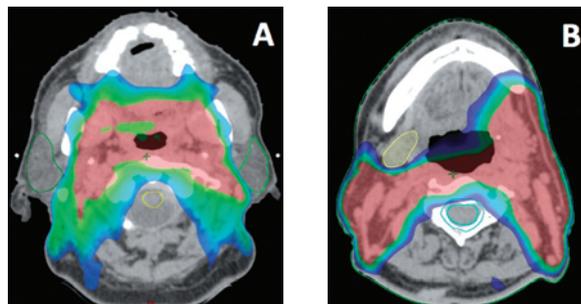


図2 IMRTによる唾液腺の保護 A: 両側耳下腺 B: 右顎下腺 (緑囲み) (黄囲み)

●QC (品質管理) /QA (品質保証) の重要性

日本でIMRTはどれくらい行われているのでしょうか。2009年の調査では、IMRTができる施設は全体の14.4%、治療患者数は1.97%でした。遅れているとお叱りを受けることもあります。しかし、人体に放射線をかけることは医療だけに許された特権で、厳密な品質管理が前提になっています。均一な放射線はより単純・正確に管理できますが、IMRTの管理には、高度な設備だけでなく、莫大な人的・時間的コストが必要です (放射線の凸凹に合わせて、患者さんを寝かせることを想像してみてください)。実際に米国では、不適切な品質管理のため死亡事故も発生しています。

●まとめ

岩手医大では、前立腺癌のIMRTを実施しており、頭頸部癌の治療体制がほぼ整って参りました。患者さんにとってより良い治療を提供できるよう、着実に進歩を続けて行きたいと思っております。